

OfByForコラム 地域の 地域による 地域のための Something NEWS

第29回

持続可能な自然エネルギー利活用のために エネルギー・&シルバー・デモクラシーの再考

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事

佐藤建吉

座に参加する暇がないというのだった。

▼100号記念で
思い出

本紙が創刊して100号になるという。その記念号にコラムを掲載できることに感謝したい。100号は、10進法による3桁の始まりであり、大きな飛躍となる。数字は、夢をつくることである。今日、私たちは、

星とともに興味の対象であったに違いない。どこかの地域でも、月を調査記録する者が現れた。結果、1年の周期性を見出し、12カ月として解釈することができた。それを尺度化し、12進法に発展させた。自然に一致した暮らしてあったと気づく。

▼自然に根差した暮らし

ふつうの計算では10進法、コンピュータでは2進法、暦や時計では12進法と多様である。12進法の起源は、月の観察にある。この未来への道標とするべき意識ではないかと思う。

12進法ばかりでなく、わが国は四季が明確で、自然に根差した暮らしがある。これは、これまでの過去のことではなく、ここからの未来への道標とするべき意識ではないかと思う。

▼自然由来のエネルギー

科学の発達していながら、つたころ、昼間の太陽の動きよりは、夜間に輝く月の明るさや姿形、さら

3月11日。東日本大震災から7年が経過した。わが国は、地震や火山噴

火の発生頻度が高いため、防災対策として祭礼などに伝統や慣習になっ

津波の最潮位(浸水ライ

ン)の高さに、神社が設置されている

というのは、その好例であり、自然と

もに生き抜くための教訓と

いえる。

毎日、NHKインターネットラジオ「らじるらじる」を聞いている。

3・11の後、2011年9月から制度化された。今では、全国の9つの局

で制作した番組を、好んで聴くことができる。筆者は出身地の東北の話題

を、仙台局からの放送で聴ける。こうした情報は、自然に根差した暮らし

の紹介もあり、NEWSとして、まさに全国の北東西南に伝わる。地方

復権へ役立つ。

▼自然由来のエネルギー

本紙は、その名のよう

に、エネルギーが情報の主役である。「エネルギー」とは、「仕事をする

能力」というのが物理学の教えである。それを、中国語では「能源」とい

う。

エネルギーは、私たちの欲望ではないが、生きるために必須のものである

ため、国際紛争の火種にもなる。それを、地域分散

型に、さらに言えば土着化する

ことが、自然に根差した「自然エネルギー」、

または「再生可能エネルギー」の利用である。

後者を中国語では「可再生能源」という。

漢字文化の私たちには、中国語表現に妙味を感じる。

「新エネルギー」「自然エネルギー」「再生可能エネルギー」には、本紙で

述べているように、太陽光・太陽熱・風力・バイオ

マス・地熱・水力・海洋エネルギーなどがある。

これらは、自然由来のエネルギー源であり、地

産エネルギーである。さらに、大事なのが、再生可能

で持続可能なエネルギーであることである。それは、「低エントロピー」

であるエネルギーの選択ともいえる。

▼未来を現実視する
シルバー世代

これまで「エネルギー・デモクラシー」という言葉が叫ばれて来た。

エネルギーを市民が選択するということである。

そしていま、高齢化が進み、デモクラシーの直接的行使の局面である現行

の投票システムでは高齢者による投票数が多く、

「シルバー・デモクラシー」という言葉で危惧さ

れている。それは、有権者のうち、高齢者の人口

が多いこと、さらに投票率においても高齢者の方

が高いことが、その背景

にある。

こうしてみると、エネルギー・デモクラシーによる自然エネルギーの選

択が遠のきそうな気配を感じるが、そうではない

側面がある。

筆者は、仲間とともに、千葉大学を会場として、2014年5月から

9月まで、全10回の「市民のためのエネルギー講座」を開催した。大学生

などが参加し易いだろうと大学で、そして土曜日

に講座を設定した。この意に反して、参加者は、

高齢者であった。毎回、講義後に参加者の意見を

聞く会を開いたが、そこで耳にすることは、「未

来」や「持続可能性」であった。

高齢者は、自身が長く生きる時間がなく、3・11のことや地球温暖化の

ことを考えると、子や孫の未来がないかもしれないという危機感がある。

過去を経験し、現在を知り、未来を考えて、この

連続講座に参加したのだという。一方、子の世代

は、現実の実務での仕事や生活に忙しく、また孫

の世代は学校があり、土曜日はアルバイトをしな

ければならなく、連続講

座に参加する暇がないというのだった。

▼シルバー・デモクラシーに期待

ここに、「シルバー・デモクラシー」による「自然エネルギー」の選択の可能性がある。小泉純一郎氏も、現職総理の時代は、原発を推進していたが、今では、原発の問題を知って、その廃止を政治運動にしている。

一般の市民において、

も、シルバーの手で、21世紀や23世紀に持続できる「エネルギー・デモクラシー」の好見本として、

「我悔いる、ゆえに我あり」、第74号10面(2017年3月20日発行)参照

一般の市民において、22世紀や23世紀に持続できる「エネルギー・デモクラシー」の好見本として、

子や孫に未来を遺産として贈ることができ

る。火力のほか、付帯設備が過剰な原子力などの

「再生不可能エネルギー」では、「エントロピー」は確実に増大する。

エントロピーは、その正体を知る人は少ないが、

私たちの行動に取捨選択、あるいは推進や規制

を自己判断する際に有効な指標でもあるといえる。

未来をつくることに、経験豊かな善良な高齢者の

行動に、感謝を述べた

い。

「市民の、市民による、市民のためのエネルギー講座」
最終回の交流会での集合写真(2014年9月20日)



連載・バッテリー